



## 新任医師紹介

9月～10月に新しく採用になった医師を紹介します。



第二形成外科医師

桑原 郁

R1.9.1

「切除する手術」だけでなく、機能や整容面をより良くするために「造る手術」を行うのが形成外科の特徴です。いつも明るく前向きに、患者さんに寄り添った医療を目指すと共に、地域の先生方のお役に立てるよう頑張ります。



感染症科部長(兼)第一小児科医師

成相 昭吉

R1.10.1

こども病院での研修後、横浜で約30年間働きました。2016年に両親の介護で戻ってきました。区切りがつき、今回、感染症科部長として着任しました。小児市中感染症が専門です。臨床・研究・教育に尽力したいと思います。

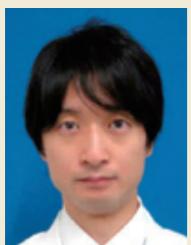


血液内科副部長

吾郷 浩厚

R1.10.1

白血病・リンパ腫に対する造血幹細胞移植／化学療法を専門とし、これまでの移植症例は500例を超えました。当院でも血液内科の向上に少しでも貢献したいと考えています。よろしくお願いいたします。



整形外科医師

牛尾 公典

R1.10.1

この度松江赤十字病院に赴任しました整形外科の牛尾公典と申します。外傷から慢性疾患まで幅広く診療し、松江市の医療に貢献したいと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



嘱託医師(研修医)

吉田 慧

R1.10.1

よろしく  
お願いします



## 退職者



●令和元年9月30日付

整形外科副部長 香川亮介  
第二産婦人科医師 笠森博貴



## 行事案内

### 第6回健康医学講座 松江赤十字病院

11月27日(水) 高齢者の食事

### 第7回健康医学講座 松江赤十字病院

12月4日(水) 患者総合支援センターについて

是非、ご参加ください。/



松江赤十字病院 地域医療連携課  
〒690-8506 松江市母衣町200番地  
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261



# れんけいだより



## 地域連携交流会に参加して



第二形成外科部長  
大石 正雄



看護部長  
加納 さえ子

今年の4月から松江赤十字病院第2形成外科部長として就任致しました大石正雄と申します。

先の8月1日に地域連携交流会に参加して参りました。

第一部では研修会として「当院における放射線科の現状」、  
「入退院支援部門から患者総合支援センターへの拡大」と院内からの紹介ともなる演題発表があり、第二部の懇親会では色々な方とお話をさせて頂きました。

15年前にも松江日赤で勤務しておりましたが、その当時は院外の先生方とは紹介状などを通じてのみお仕事をしており、実際にはお話する機会はありませんでした。今回初めて近隣の開業されている先生方のお顔を拝見して、距離が縮まったような感覚があります。また、当時日赤に勤めておられ、現在は開業されている先輩方ともまた新たにつながりを持つことができました。さらに高校時代の同級生とも約30年ぶりに会うことができ、まさに旧交を温めるとてもよい機会となりました。恐らく他のテーブルでもちょっとした同窓会のようなものが繰り広げられていたのではないかと思われます。

急性期を担う病院としての役割を全うするためには地域連携は欠かすことができず、今後も円滑に業務を運ぶべく、このような顔の見える交流会への参加は重要と実感致しました。

今年も8月1日に第16回地域連携交流会が開催されました。開業の先生方64名、当院67名が参加しました。第一部は、今年4月から当院に着任され、精力的に放射線治療に取り組まれている、放射線診断科・大内部長による「当院における放射線科の現状」と題した様々な画像、動画を用いた興味深い講演でした。また、看護部・星野看護副部長による「入退院支援部門から患者総合支援センターへの拡大」は、地域包括ケアシステムのもと、地域との連携を早い段階から多職種で行い、患者さんを支援する取り組み等の報告でした。第2部の懇親会は和やかな雰囲気で始まり、ある先生が「迷惑かけてないかいね。また、よろしく！」と話しかけていただき、新米看護部長の私も緊張が和らぎました。開業医の先生方の温かいご支援と連携があってこそ、当院が地域支援病院の役割を果たしていくと思っていますので、今後とも何卒、よろしくお願ひいたします。



# 患者総合支援センターができました！／



看護副部長  
星野 和子

平成30年度診療報酬改定で、地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化・強化と連携を推進する方法として入退院支援の推進が評価されるようになりました。当院では、平成29年4月から予定手術入院患者に限定した入院支援の取り組みを開始しました。その後、退院支援・患者相談を含めた患者総合支援センターへ拡大した取り組みについて述べます。

まず、入院支援では、手術入院される患者さんが、入院までに手術をイメージし、安心して準備ができるように、専属の看護師からパンフレットを使用し説明します。また、地域歯科医師会の先生方のご協力で、挿管時のトラブルや呼吸器合併症の予防目的で行う口腔チェックを入院前に受けられるようになりました。院内では、リハビリ科と連携し、呼吸機能低下がある

患者さんに、外来から術前呼吸リハビリを受けられるような体制を作り支援を行いました。そして、平成30年12月には、地域連携・入退院支援・患者相談部門を組織的に統一して、「患者総合支援センター」に移行しました。看護師、事務、MSWなど総勢32名で、外来・入院・退院後の療養まで切れ目のないワンストップサービスを実施する体制を整えました。さらに、退院支援を充実する目的で、病棟では療養支援担当の看護師を決め支援業務を行う体制を作りました。入院時面談で退院後の意向を確認した上で、地域と合同のカンファレンスを行い在宅に繋げられるように支援しています。

これらの取り組みの結果、患者さんが自宅で口腔ケアや呼吸訓練を実践されるようになり、消化器外科では術後呼吸器合併症発生率の減少が見られました。また、患者満足度調査では、手術や入院の準備・心構えができたと約92%の方が満足と答えられています。

今後も、地域支援の方々と連携しながら、患者さんの療養を支援していきたいと思いますので宜しくお願ひ致します。



## 第12回 松江赤十字病院 地域連携 サイエンス 漢方 処方研修会に参加して



心臓血管外科部長  
齊藤 雄平

心臓血管外科手術は御想像通り侵襲の大きな手術になりますが、消化管の操作をしていないにもかかわらず術後に食欲が落ちてしまうことがしばしばあります。特に高齢者にその傾向が強い印象で、手術侵襲によるいろいろな影響によるものと推測しています。一回食欲が落ちてしまうとなかなか元に戻らず、原因がわからないのでその治療方法もありません。体調が回復して食欲が戻ってくるのをじっと我慢して見守るしかないのが現状で、食事が摂れないだけで入院期間が延長し、またいろいろな合併症に連鎖してしまう、術後のタチの悪い悩みの種の一つです。

そこで目を付けたのが、いつも御講演をいただいている井齋先生からヒントをいただいた漢方薬でした。たまたま回復の時期が到来しただけなのかもしれません



が、漢方薬の投与を契機に食欲が明らかに回復してくる症例を何例も経験しています。私は人參養榮湯、補中益氣湯、十全大補湯、六君子湯の4剤を症例ごとに考えて投与しています。井齋先生からも使い方は間違っていないとのお墨付きをいただきましたので、安心して続けてみることといたしました。

他科の手術後に食欲が低下してしまうことがそんなにあることなのかよくわかりませんが、もしそうな状況に出くわしてお困りの時は試してみる価値があると思います。また、手術後以外の食欲不振にも効果があると思われますので、他に打つ手がない時にはぜひとも試してみられてはいかがでしょうか。

会は、井齋先生のいつものユーモアをふまえた楽しく、ためになる御講演で幕を閉じました。回数を重ね、テーマは以前と重なるものもありますが、毎回version-up されており、その内容は全く別の新たな御講演を拝聴しているようであり、漢方の奥深さを改めて痛感させていただきました。そして、それを何千年も前より経験的に実践してきた古代中国の医療者に“スゴイわ・・・”と溜息をつかずにはおられません。

